

平成24年度 はつしば学園小学校学校評価

はじめに

知識基盤社会、グローバル化の時代といわれるこれからの社会にあって、はつしば学園小学校(以下、本校という)は、それに対応しうる学力や英語力、そして、大きく変わりゆく社会にあっても普遍的に身に付けていくべき、心の豊かさやしつけという面からの社会性の習得を日々の教育活動の中で進めてきたところです。

具体的には、学園としての教育理念である「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」のもと、本校では子どもの『未来のための学び』として、「基礎学力の充実」「英語教育」「幅広い体験学習」「しつけ教育」の4つの教育活動に重点的に取り組んできました。

また、平成24年度は10年目の区切りの年として、平成24・25両年度を跨いで10周年記念事業を実施しています。運動会イベント、音楽会イベント、第1回公開授業、アスレチック広場改修、記念パンフレットの作成等、保護者会「若葉会」の大きな協力をいただきながら実施しました。

平成24年度の教育活動を振り返る時、当然のことながら成果を含め評価されるべき点と、それに至らず十分なる検討が求められるべき点があります。さらに前向きに一步を踏み出す方向を確かなものとするために、平成24年度の本校教育活動についての学校評価を以下のように行いました。

【1】平成24年度の概要

平成24年度本校は、1年生から6年生まで633名、21学級編成でスタートしました。

学校教育に関して非常に高い関心を持っていただける中で、教育活動を進めることができたと思います。

保護者アンケートでの設問「学校での出来事を子どもと話すようにしている」と設問「学校は、保護者と連携して子どもを育てる努力をしている」に対する「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な評価(以下、肯定的な評価という)の割合がそれぞれ95%、86%になっているように、家庭との連携を重視しながら学校教育を進めていけたと考えます。

学習指導面では、平成25年2月16日に第1回公開授業を開催し、教員の資質向上に向けて、積極的に取り組みました。その効果、成果の数値化ということは、今後の課題であるものの、保護者アンケートでの設問「教職員は、授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている」と設問「教職員は、児童のことをよく考えて指導している」の肯定的な評価の割合が、それぞれ88%、91%となっています。

このように、保護者の皆様のご期待に応え、また研究の成果を子どもたちに返すべく、今後毎年研鑽を積み重ねていきます。

英語教育については、平成24年度後半より担任教員の授業への同席を開始し、より集中して楽しく学習に取り組むことができ、コミュニケーションの一つのツールとしての英語教育は高いレベルに達しつつあることを実感しています。

保護者アンケートでの設問「異文化交流など国際理解に対する教育がなされている」

の肯定的な評価の割合は 82%を得ている所ではありますが、コミュニケーションツールにとどまらず、人との交流も含めた外国文化に触れる機会を設け、子ども達にとって一層楽しく、幅広い英語教育の充実を図り、より高い理解をいただけるよう取り組んでいます。

高学年において中学校英語への接続を考え、平成 24 年度より「書く」という内容の学習を 4・5・6 年に広げて実施しています。平成 25 年度からは、ライティングの授業も日本語ではなく、英語で進めることを計画しています。

体験的に学習することは、獲得する知識・理解を深めていくものと考えられます。理科学習の一環として、若葉会の方々のご協力もいただきながら「ペットボトルによるロケット体験学習」や「ロボティクス科(レゴブロック)」の授業は、平成 24 年度も子ども達の興味・関心を大いに盛り上げていました。

6 年生の修学旅行においては、立命館アジア太平洋大学（A P U）の様々な国・地域の学生との交流を楽しむことができました。それと共に、6 年間の英語教育の集大成として、交流する中で学んだことをまとめ、グループごとに英語でスピーチしました。

1・2 年は大阪府立少年自然の家で宿泊し、学年を越えて共同生活に取り組みました。大自然の中で家族以外の人達と過ごすことで、自主自立の精神を磨くことができたと思います。何より平成 24 年度は「体験学習」として、「気力・体力の向上、豊かな人間性の育成、社会的ルールの習得」を目標としながら、全学年において宿泊学習を行うことができました。

平成 23 年度から全児童による縦割り活動としての「レインボー・タイム」を本格的に実施しています。平成 24 年度も「レインボー遠足」として、全員で大泉緑地に行くとともに、1～6 年の縦割りグループごとにオリエンテーリングやレクリエーションの 1 日を過ごしました。低学年・中学年児童からは大変好評な取り組みである一方、高学年児童からは、責任の重さからか、自分自身が楽しめないとの声も聞こえてきました。しかしながら、高学年の児童のリードのもと、10 周年記念事業の一貫として取組んだ階段アートは、見事なものでした。平成 25 年度に向け、異年齢集団の中でのコミュニケーション力の育成や人として弱者を大切にすることを身に付けさせるべく、内容の充実・変化等も検討し行っていきます。

「しつけ教育」ということは、本校教育活動の一つの大きな柱と考えています。「当たり前前」のことを「当たり前」に」をキャッチフレーズとして、「人の話を聴く」ことに始まり、朝の挨拶、靴の収納、清掃等、児童全員に対し、場面を捉えた指導を続けています。保護者アンケートでの設問「あいさつや時間厳守など、社会に通用する指導がなされている」の肯定的な評価の割合は 90%弱を得ており、その効果の見えるところも多々あります。

しかし、下校時等における児童のマナーに欠ける行動が報告されることがあり、まだまだ子ども達の身についているわけではなく、まだ教職員の一致した指導・サポートの必要などあります。とくに、下校時等の教職員の目の届かないところへの指導のあり方が課題と考えるところです。

【2】平成24年度の重点目標の達成状況

○募集状況について

大阪初芝学園2017基本構想において策定された本校の適正規模は105名です。

平成25年度入試の結果は、受験者95名、入学者数79名となりました。少子化の影響に長引く不況が加わり、本校も私立小学校全体の受験者数減少の影響が大きく受けた結果となりました。

また、体験入学や説明会への参加者数は、年中児の参加が増えたことにより平成23年度に比して増加傾向でしたが、出願・受験者数の増加には至りませんでした。年中児の参加者数増加という傾向を受け、平成24年度内の平成25年2月に合格者体験・入学前説明会と同時開催で、年中児対象の英会話体験を行い、好評を得ました。

さらに、本校の特色がしっかりと伝わる機会の在り方、入学試験の内容にまで踏み込んだ説明、そして児童自身の気持ちをしっかりとつかむ在校児童との交流体験の在り方を見直すと共に、ロコミが非常に重要であり、在籍している児童・保護者へのきめ細かな対応や教育内容のいっそうの充実を図らなければなりません。学校の総力を挙げて取り組んでいく所存です。

○進学状況について

学園内3中学校への進学については、小学校・中学校間の児童・生徒の交流行事などの取り組みの促進、各中学校のご協力を得た保護者への進路説明会の充実を例年以上に図った結果、内部合格実績は、初芝富田林中学校71名、初芝立命館中学校21名、初芝橋本中学校2名となりました。

外部進学については、灘、東大寺、西大和、四天王寺、大阪星光、大阪教育大附属平野、清風南海、清風、奈良帝塚山、桃山、大阪女学院、開明、明星等となっています。

平成25年度に向けて、さらに児童一人ひとりの希望に応じた進路実現に向けた進路指導を実践していきます。

○学園の幼稚園・小学校・中学校高等学校の連携

はつしば学園幼稚園の園児と本校の低学年児童の交流については、いくつかの取り組みを行ってきました。幼稚園との連携は、小学校にとっては募集のみならず幼小一貫教育の確立に繋がる大きな課題であり、幼稚園園児の保護者に「はつしば学園小学校」を、自然な流れとして無理なく、しかも着実に知らせる必要があると考えています。

高学年と学園内3中学校高等学校との連携は、交流学年の広がりを図ると共に、質の向上に努めながら取り組みました。平成24年度は、子どもの交流のみならず、教職員同士の語り合いにより、小学校の教職員が先ず、中学校高等学校をよく知るという研修会を開催しました。さらに、中学校高等学校の教職員が小学校の教育内容を知るということも進め、カリキュラム上の連携も視野に入れた小学校と中学高等学校の体系的な連携を展望しています。

【3】 平成 24 年度の学校評価と改善に向けて

学校評価（保護者アンケート）の全 24 項目中、肯定的な評価の割合が 10 項目で 90% 以上、10 項目で 80% 以上であり、全体として高い評価をいただきました。

良い点をさらに伸ばすとともに、肯定的な評価の割合が 80% 未満の 4 項目についてはさらなる改善策を考えていきます。

進路指導（3 項目）において、「的確な情報の提供」や「きめ細やかな指導を」ということが学校評価の中において指摘されています。教職員の進路指導研修の実施、より早い段階からの保護者説明会等の開催等を通じて、保護者の皆様に満足していただけるように努めていきます。

別課題（1 項目）として、「子ども・児童の悩み相談への対応」が十分な成果に至っていない状況です。特別支援コーディネーターとして養護教諭と教諭 1 名が中心となり、日々の授業、学校生活の中での対応について、スクールカウンセラーより指導を受けながらアプローチしてきました。その効果は、相談件数の増加に表れています。これからも学校・家庭が一体となって、さらに取組みを進めたいと考えています。また、どの子をも様々な視点から見守り、児童からのみならず教職員が自ら児童の変化に気づくように心がけねばならないと考えています。

【4】 平成 25 年度の重点目標

○募集活動

私立小学校として、募集活動は大変大きな課題です。平成 24 年度の状況等に鑑み、適切な対応・方策が求められます。年中児のアプローチとして早い段階から踏み込んだ情報の提供を行っていきます。はつしば学園幼稚園との連携のもとに受験者増加に向けての取組みも重要です。連携の窓口を明確にし、具体的な取組みを進め、幼稚園からの入学者数 15 名という目標に向けて取組んでいきます。

105 名という募集定員の確保は、全てのことに関わる原点であり、重点目標となるところです。

○進路指導

学園内 3 中学校への進学指導・援助に当たっては、小学校・中学校連携を進める中で、児童・保護者の希望や関心・意欲とマッチした取組みを、可能な限り進めていかなければなりません。担任教員と児童・保護者の良好な関係が重要であり、何より担任教員自身が内部 3 中学校の情報をよく知り、そのよさを説明できるメッセージヤーであらねばなりません。目標として内部中学校への進学率 65% を掲げていますが、この目標に一步でも近づくことが重点目標です。

児童一人ひとりの希望・能力・適性に応じた、学園内 3 中学校および外部の「難関中学校」への進学という幅広い進路選択のメリットを最大限生かした指導・援助を行います。

○修学旅行・宿泊学習

平成 24 年度の修学旅行は、大分の立命館アジア太平洋大学（A P U）の各国・地域からの留学生との交流をメインとしたグローバル・イングリッシュキャンプを中心とした内

容でした。雨天ということもありましたが、その内容をさらに充実させるべく、引き続き検討していきます。

5年の臨海学舎については、体育水泳授業の充実を図りながら、多様な活動を取り入れる中でも泳力を高める内容の充実を図りたいと考えています。これは、夏の水泳授業の改善も図りながら、泳力を高める必要があり、授業改善の一つの課題であると考えています。

また、1年から6年まで全学年の宿泊学習を実現することができました。児童にとっても教職員にとっても大きな充実感を持つことができた取り組みでした。さらに、宿泊学習の指導内容の系統化を考えながら、その充実をめざします。

○新しい取り組みについて

異年齢間の児童同士が関われる時間が多く取れないという現状がありますが、これを克服すべく、「レインボータイム」という名称で1～6年生による縦割り活動の実施を始め、年間を通し日常の学校生活、児童活動の中への定着を図ってきました。この取り組みによって、児童間の交流が大きく進みました。さらに効果的な活動について検討したいと考えています。

放課後の児童の安全管理を目的に「放課後預かり」事業を発足させました。徐々に発展的に取り組みをすすめ、児童の安全、保護者支援に努めているところです。

平成25年度は、放課後教室の拡充、土曜日ではつしばスポーツクラブの種目増加と理科クラブの実現に向けて検討しています。また、時間割に位置付けられているクラブ活動についても、児童や保護者のニーズを受け、新クラブを検討中です。

子ども達に様々な体験の機会を広げるべく考えています。

おわりに

平成24年度の本校の教育活動を振り返る中で、改めて考えるべきは本校が「私立の小学校」であり、思い切った特長や方針を打ち出していくことこそ、教育の質の向上につながり、ひいては志願者の増加を展望することになるということです。

通学に時間をかけても、授業料を負担してでも、是非はつしば学園小学校へ入学したい、させたいと幼児・保護者が実感できる「はつしば学園小学校の教育活動のセールスポイント」が必要です。それは、何より目の前の児童の教育活動を充実させることです。在校生の保護者の方々に納得いただける教育を実践することこそ、募集に繋がることだと強く感じます。

「基礎学力の充実」には、学ばされているのではなく、自ら進んで学びたいと学習に打ち込む教室の環境作りが必要です。当たり前だと感じてしまっている、子どもと教員の信頼関係、子ども同士の信頼関係を見直し、着実に築いていく必要があります。そのことを抜きにした授業改善はありません。

「英語教育」はどの私立小学校でも公立小学校より進んでいます。コミュニケーションツールに留まらない、カリキュラム開発を伴ったダイナミックな展開が必要です。

「幅広い体験学習」は体験学習だけで充実するものではありません。日々の学習とつながりが見えてこそ、その表れとしての体験が光るのです。教員のカリキュラム作成能力

が問われるところです。

「しつけ教育」というからには、その成果が目に見えるものでなければなりません。しつけについては、徹底した取り組みが必要です。子どもに押しつけるのではなく、その必要性を子どもに問いながら、考えさせながら進める必要があります。教職員全員の一致した指導が必要です。心して進めます。

幸いにして、創立10年という好機を迎え、教職員の意識の中にも指導力を伸ばしたい、指導の充実を図りたいという強い思いがあります。このエネルギーを子ども達の活動の支えとして、はつしば学園小学校のさらなるバージョンアップを図ります。また、このような学校の取り組みをホームページなどで、積極的に発信し、多くの方々にはつしば学園小学校のよさを伝えてまいります。

はつしば学園小学校 学校関係者評価委員会報告書

1 実施日時 平成25年3月7日(木) 午前9時より10時30分

2 ご出席いただいた委員の方

東区自治連合協議会会長

大阪大谷大学教授

保護者会・若葉会会長

3 校長より、平成24年度教育状況についての説明後、委員の先生方によるフリースタイル形式で本校教育について、語っていただきました。(以下抜粋)

○ 平成24年度も教育活動について、保護者のみなさまに評価をいただき活かすことによって児童・保護者の方々に満足いただけるはつしば学園小学校をめざしてきました。

平成20年度より「保護者アンケート」を実施し、学校教育の客観化に努めております。全体の傾向に関すること、運営に関すること、教育内容に関すること、生活指導に関すること、教員の資質に関することについて、24項目の設問にわたって答えていただきました。24項目中20項目の設問については、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の肯定的な評価の割合が80～100%と高い評価をいただいています。

残る4項目の内、3項目については、進路にかかわるもので、肯定的な評価の割合が60～80%であり、進路についての不安が表れていると考えています。他の1項目については、悩みや困ったことを先生に相談できているかどうかという設問で66%という厳しい評価をいただき、信頼関係の構築の必要性を強く感じているところです。

○ 教育活動については、ホームページからの抜粋で見いただけます。

○ 公開授業はよかった。子ども達が実によく考え、その考えをよく発言していた。自分もあんな授業を受けてみたかった。

○ 勉強は学校で完結し、家では家での役割があると言われてきた自分にとっては、中学入試の重視は私立として当然のことであると考えているが、人が生きる上で大切なことを見誤るような教育の推進であってはならない。もっと、自分の思いや願いを堂々と人前で語ることができる子に育ててほしい。

○ 公立にはない特色をこれからも打ち出してほしい。

○ 型にはまらない自由な生き方を追求できる私立学校としてはつしばを選んだ。親としては、学校に子どもが合わせるのではなく、これからも子どもの個性を重んじてくれる学校であってほしい。

○ お行儀がいいだけでなく、元気がある。元気いっぱい走り回る子どもを育ててほしい。はつしば学園小のよさを大切にしてほしい。

○ 英語教育の充実をめざすという方向性は、興味がある。コミュニケーションツールのみならず、やはり人と人とのつながりを追究してほしい。それには、それぞれの国の文

化を知り、大切にするという姿勢が必要である。これから日本が国際社会の中で対話していく中でリーダーになれる子どもたちを育ててほしい。

- はつしば学園小学校がここに来ていただいたということは地域の大半が賛成していることである。もっと地域の人がここに行きたいと思っていいのではないだろうか。でも公立とちがって、はつしば学園小学校は何がよいのかが見えていないと思う。もっと地域へのアピールが必要である。

貴重なご意見をいただきありがとうございました。やはり私立としての個性をどこに定め、いかに出しきるかということが、存在感のある学校として持続的に発展していけるということにつきますと思いました。真摯に課題に向き合い、取組んでまいります。